

地方独立行政法人天王寺動物園

業務実績評価シート(個票)

令和 6 年度中の業務実績
(令和 7 年度に評価)

【全53項目】

【評価点】

- V : 計画を大幅に上回って実施している
- IV : 計画を上回って実施している
- III : 計画を順調に実施している
- II : 計画を十分実施できていない
- I : 計画を大幅に下回っている

評価シート（個票）

通し番号		1		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・動物導入に向けた準備・交渉などの調整実績	
		Ⅳ	・動物導入に向けた準備・交渉により、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・動物導入に向けた準備・交渉により、はるかに園の魅力向上に貢献できた事例		
D	行動	●既存施設の教育効果向上に向け、ホンドギツネおよびチョウゲンボウの導入に加え、コレクション計画でA'（繁殖不可・導入推進）で、熊本市動植物園のリニューアルに伴い搬出希望となっていたグラントシマウマ2頭を引き取った。 ・ホンドギツネ：10月入園。日本人にとって身近な動物であったが、大阪府ではレッドリストに掲載されている絶滅危惧種である。平成10年以降、当園では飼育が途絶えていたホンドギツネを導入することで、子どもたちに対する教育効果向上と、海外からの来園者に人気の高い在来種の展示種増加を図ることができた。 ・チョウゲンボウ：11月入園。猛禽舎の空き獣舎を活用でき、かつ外国人にも人気のある在来種のチョウゲンボウを導入することで、展示効果を向上させることができた。 ・グラントシマウマ：2～3月入園。平成23年以降、シマウマ1頭のための飼育を継続していたが、新たに2頭導入することで、野生では群れで暮らすシマウマの生活を観覧していただく準備が整った。 ●令和6年1月に発生した能登半島地震で被災したのとじま水族館より、2月にカリフォルニアアシカ1頭を引き受けて飼育し、健康状態を良好に保った状態で、10月にいしかわ動物園（のとじまと同じ運営会社）へ引き渡したことにより、当園に対する信頼を向上させることができた。 ●葛西臨海水族園の改修工事のため、令和6年9月に葛西所有のフンボルトペンギン24羽を預かったが、令和7年3月に健康状態を良好に保った状態で全羽を返却したことにより、当園に対する信頼を向上させることができた。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	外国人に人気のある在来種の導入によって、飼育数増加や新たな展示種など、展示効果向上や教育効果向上、園の魅力向上につながった。また、他の園等からの預かり個体を無事引き渡しできたことで、当園に対する信頼を向上させることができたため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	ホンドギツネ及びチョウゲンボウについては、コレクション計画上に記載はないが、新規に導入できたことで動物展示の充実に向け継続した調整を行っていると言える。グラントシマウマについても既存の1頭に加えて新たに2頭導入したことで、計3頭での群れ飼育が可能となるとともに、野生本来での生態を観覧できるよう展示の準備を整えた。加えて、のとじま水族館からカリフォルニアアシカ1頭を、葛西臨海水族園よりフンボルトペンギン24羽を預かるなど、他園等との信頼関係を構築するため動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力しており、新規希少動物の導入に向けて計画以上に取り組んでいると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[1]コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		2																		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																		
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。																		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。																		
	年度計画	JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理担当等と緊密に連携を図り、情報収集を行うことで展示動物の充実に取り組む。																		
	評価事例	Ⅲ	・種別管理の担当や部会員を新規・継続して受嘱した実績																	
		Ⅳ	・種別管理等の担当をすることで園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例																	
		Ⅴ	・種別管理等の担当をすることでほかに園の魅力向上に貢献できた事例																	
D	行動	JAZA（日本動物園水族館協会 総裁：秋篠宮皇嗣殿下）各委員会等の専門技術員の受嘱が令和5年度より1名増加し、のべ11名参加した。 ◆受嘱委員会及び受嘱者 ①生物多様性委員会 <table border="0"> <tr> <td>キリン専門技術員</td> <td>動物診療課職員（新規）</td> </tr> <tr> <td>ヨウスコウワニ種別管理者</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>ホッキョクグマ専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>クロサイ専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>シシオザル専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>マレーグマ計画推進会議専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>ニホンイヌワシ専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>フランソワルトン専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> </table> ②安全対策委員会 感染症対策部部員 動物診療課職員 ②総務委員会 栄養部部員 飼育展示課職員 ④教育普及委員会 学術研究部部員 飼育展示課職員 ◆会議出席状況 ・7月 キリン計画推進会議に出席（1名。令和6年度新規） ・7月 マレーグマ計画推進会議に出席（1名） ・7月～3月クロサイ計画推進会議（オンライン、1名） ・9月 シシオザル計画推進会議（オンライン）に出席（1名） ・9月 ホッキョクグマ計画推進会議に出席（2名） ※過去の会議により、当園所有のゴーゴとイッチャんのよこはま動物園への貸出しが決定し、12月に赤ちゃん1頭（所有権：当園）が誕生した。 ・10月 第1回学術研究部会議（オンライン）（1名） ・11月 ニホンイヌワシ計画推進会議に出席（2名） ※この結果、当園のペアが育雛経験があったことから仮親として托卵させる方向で調整を行い、3月に秋田市大森山動物園からニホンイヌワシの有精卵2個を譲り受けることができた。 ・12月 学術研究部からの派遣として第72回動物園技術者研究会に出席（1名） ・12月 第1回栄養部会に出席（1名） ・2月 ヨウスコウワニ血統登録簿および2025年種管理計画を作成 ・2月 第2回学術研究部会議（1名） ・3月 フランソワルトン計画推進会議に出席（1名）			キリン専門技術員	動物診療課職員（新規）	ヨウスコウワニ種別管理者	動物診療課職員	ホッキョクグマ専門技術員	動物診療課職員	クロサイ専門技術員	動物診療課職員	シシオザル専門技術員	飼育展示課職員	マレーグマ計画推進会議専門技術員	飼育展示課職員	ニホンイヌワシ専門技術員	飼育展示課職員	フランソワルトン専門技術員	飼育展示課職員
キリン専門技術員	動物診療課職員（新規）																			
ヨウスコウワニ種別管理者	動物診療課職員																			
ホッキョクグマ専門技術員	動物診療課職員																			
クロサイ専門技術員	動物診療課職員																			
シシオザル専門技術員	飼育展示課職員																			
マレーグマ計画推進会議専門技術員	飼育展示課職員																			
ニホンイヌワシ専門技術員	飼育展示課職員																			
フランソワルトン専門技術員	飼育展示課職員																			
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	専門技術員の受嘱が前年度より1名増加した。 各動物種の繁殖計画推進会議にも欠かさず参画しており、JAZAの生物多様性委員会へ貢献することで、園の信頼向上につながったことに加えて、ニホンイヌワシの有精卵を譲り受けることができたため。																
	市の評価	Ⅳ	評価理由	種別管理の担当等を継続して受嘱することで、園の信頼向上が来ており、絶滅危惧種であるニホンイヌワシの繁殖やそれによる来園者への教育効果を考慮すると園の魅力向上に貢献するものといえることから、計画以上に進捗していると評価できるため。																
	ヒアリング結果	種別管理の担当等を継続して受嘱し、各種活動へ積極的に参加していることで、園の信頼向上につながった。また、一定の基準を満たす動植物園等について、「種の保存法」の規定により環境大臣が認定する「認定希少種保全動植物園」に認定され、繁殖等に向けた他園館との個体のやり取りについて手続きがしやすくなったこともあり、ニホンイヌワシの有精卵をスムーズに譲り受けることにつながった。絶滅危惧種であるニホンイヌワシの繁殖、当該種の展示効果及び教育効果は園の魅力向上に貢献するものといえることから計画以上に進捗していると評価できる。今後はより一層、日本全国における生物多様性の保全にも貢献してほしい。																		
A	次年度の年度計画	[2]JAZAの種別管理者、専門技術員及び部員としての受嘱を継続し、個体群管理計画に連携して取り組み、展示動物の充実へ繋がるよう取り組む。																		

評価シート（個票）

通し番号		3		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	JAZA、WAZA開催の研究会、地域別会議等に積極的に参画し、得られた情報を共有することで飼育技術の向上に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・研究会等への参加・協力の上、得られた情報を園内で共有することで飼育技術が向上した実績 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・研究会等で得られた知識により飼育技術が向上し園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・研究会等で得られた知識により飼育技術が向上しはるかに園の魅力向上に貢献できた事例		
D	行動	・年間を通じて、JAZAの研究会等に積極的に参加し、飼育技術の向上に資するため、他園館の情報や飼育管理に係る最新の情報収集に努めた。 ◆研究会等への出席 計21件、のべ32名参加 ◆主な参加研究会・得られた情報等 ・10月、野生動物保全繁殖研究会大会 アフリカハゲコウの国内初繁殖の報告があり、当園のハゲコウのオスからメスへの攻撃行動が繁殖行動の前段階である可能性が判明した。現在、当園では上記攻撃行動のためオスとメスを分けて飼育しているが、研究会で他園発表を受け、今後、同居・繁殖を目指すことが判明した。 ・11月、近畿ブロック動物園水族館技術者研究会 フクロウの暑熱対策にミスト発生装置を導入したが冷却効果は得られず忌避行動が観察されたという他園の発表から、フクロウ類にはミスト装置以外の暑熱対策をまず考えるべきという知見を得た。 また、海生哺乳類への水分補給としてゼラチンで凝固した水を食べさせるという発表があり、当園で飼育しているカリフォルニアアシカへのゼラチンを使った給水を開始した。 ・11月、両生類爬虫類会議 富山県でのハクバサンショウウオの保全例では生息状況調査を実施し林道開発の見送りにつなげており、当園で開始したオオサンショウウオの生息状況調査を、今後どう生息域内保全につなげるかを考えるうえで参考になった。 ・12月、動物園技術者研究会 当園の発表がベストプレゼンテーション賞を受賞した。当園においても今後取り入れたい動物舎の安全対策やメディア対応、SNSについての知見を得た。 ・3月、キリンの削蹄講習 すでに確立した他園でのキリンの削蹄について技術指導を受けることができたため、当園でのキリンの削蹄におけるトレーニングや飼育員の安全確保について向上させることができた。 ・過去の両生類爬虫類会議で発表されたケニアスナボアの床材嗜好性についての発表を受けて、2月より当園においても共同研究を開始し、スナボアの飼育環境及び福祉向上を図っている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	研究会等へ参加し得られた情報を共有することにより、職員の知識向上と動物福祉の向上を図ることができたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	研究会等への職員の積極的な参加、園に戻った後の知識共有、共有した知識の現場への還元といった向上につながる流れができつつあり、計画どおり進捗していると評価できる。今後は効果測定、検証を積み上げることで飼育技術の向上に留まらず、園の魅力向上にも取り組んでほしい。		
A	次年度の年度計画	[3] JAZA、WAZAの各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		4		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。 また、令和7年1月1日に開園110年を迎えることから、シンボルイヤーとして位置づけ、様々な周年イベントを実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ イベントの実施および検証結果の指針への反映	
		Ⅳ	・ 検証結果を次期イベントに反映したことによる集客増やアンケートでの高評価 ・ 各イベントを実施したことによる園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・ 各イベントを実施したことによる園の魅力向上にはるかに貢献できた事例		
D	行動	・クイズラリーやワークショップなどの企業との共催イベントや、プレモーニングズなどの110周年記念事業におけるイベントの開催数は41件にもおよび、令和5年度より増加した。 ・各イベント実施後はアンケート等で検証を実施し、アンケートを実施したイベント24件のうち、23件が満足度や学習効果等の項目で80%以上の回答が高評価であった。 ・観覧場所を指定しているホッキョクグマイイベントのアンケートで「前後交代制にするか、何か対策をしてほしい」という意見があり、次回開催時にアナウンスによる対策を実施し、イベント満足度が85%から94%に向上した。 ・110周年記念事業では、PTを6回開催し検討を進め、記者会見や開園記念日までのカウントダウン投稿（110日間）、特設サイトの開設、御堂筋線1編成5車両の電車内つり革広告、阪堺電車フルラッピング広告といった、通常とは異なるアプローチで積極的に情報発信を行った。 ・令和7年1月1日の110周年開園記念日は、無料開園のほか、ユニフォームを着て記念撮影ができるユニフォーム撮影会など、様々な新企画のイベントを実施することにより、入園者数が昨年の5,463人をはるかに超える21,109人となった。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	・110周年記念事業において、記者会見や電車内広告、ラッピング電車の運行、特設サイトなど通常イベントとは異なるアプローチで情報発信に積極的に取り組んだため。 ・開園記念日の1月1日は無料開園し、様々な新企画のイベントを実施したことにより、昨年と比べ入園者数の大幅増となったため。 ・ホッキョクグマイイベントにおいて、アンケートでの意見をもとに運営方法を変更し、その後のアンケートで高評価を得たため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	既存イベントの継続実施、アンケート結果をもとにした改善に取り組んでいるほか、新規イベントも積極的に実施し、計画以上に園の魅力向上に貢献できたため。
	ヒアリング結果	既存イベントは参加者アンケートの意見をもとに改善に取り組んだほか、プレモーニングズを企画するなど新規イベントを複数実施した。また、令和7年1月1日の開園記念日は無料開園とすることで、21,109人の来園がありお正月期間の集客増につながった。開園110周年を迎え、第4四半期はこれまで以上にイベントを実施しており、計画以上に進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[4] これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。 また、110周年イベントを引き続き実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		5																																			
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																																			
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。																																			
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。																																			
	年度計画	継続してファンクラブ募集に取り組み、前年度を超える会員数を目標とする。																																			
	評価事例	Ⅲ	・継続してファンクラブ募集に取り組み、前年度以上の会員数を獲得 （指標：前年度と同水準以上）																																		
		Ⅳ	・新たな取り組みを行いかつその取り組みによって生じたリピーター率のあきらかな上昇																																		
Ⅴ		・新たな取り組みを行いかつその取り組みによって生じたリピーター率のはるかな上昇																																			
D	行動	「ファンクラブスマートにアップグレード特典を追加」、「ファンクラブプチの周知を強化（Instagramへの掲載追加、限定缶バッジのスケジュール公表）」、「ナイトZ00や110周年、ホッキョクグマの日等に合わせたファンクラブプチ限定特典（缶バッジ）の追加」、「バックヤードツアーの申込案内の周知およびバックヤードツアーの実施」、「ナイトZ00や園外イベントでのファンクラブ呼び込み」など計画に即して施策を講じた結果、ファンクラブ会員数の実績対昨年度比については以下のとおりとなった。 ◆ファンクラブ会員数比較表 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">R5 ※</th> <th rowspan="2">R6 ※</th> <th rowspan="2">前年度比</th> <th colspan="2">リピート率</th> </tr> <tr> <th>R5→R6</th> <th>（参考）R4→R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレミアム</td> <td>505</td> <td>569</td> <td>112.7%</td> <td>82.8% (418/505件)</td> <td>83.0% (346/417件)</td> </tr> <tr> <td>スマート</td> <td>90</td> <td>120</td> <td>133.3%</td> <td>75.6% (68/90件)</td> <td>64.3% (45/70件)</td> </tr> <tr> <td>プチ</td> <td>3175</td> <td>5021</td> <td>158.1%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>82</td> <td>76</td> <td>92.7%</td> <td>92.6% (63/68件)</td> <td>96.6% (57/59件)</td> </tr> </tbody> </table> ※プチ、法人は口数					R5 ※	R6 ※	前年度比	リピート率		R5→R6	（参考）R4→R5	プレミアム	505	569	112.7%	82.8% (418/505件)	83.0% (346/417件)	スマート	90	120	133.3%	75.6% (68/90件)	64.3% (45/70件)	プチ	3175	5021	158.1%			法人	82	76	92.7%	92.6% (63/68件)	96.6% (57/59件)
		R5 ※	R6 ※	前年度比	リピート率																																
R5→R6					（参考）R4→R5																																
プレミアム	505	569	112.7%	82.8% (418/505件)	83.0% (346/417件)																																
スマート	90	120	133.3%	75.6% (68/90件)	64.3% (45/70件)																																
プチ	3175	5021	158.1%																																		
法人	82	76	92.7%	92.6% (63/68件)	96.6% (57/59件)																																
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	継続してファンクラブ募集に取り組み、会員数が増加しているため。																																	
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに																																	
	ヒアリング結果	近隣商業施設のイベントでファンクラブ加入を呼びかけるなど、新たな取組を通じて会員数の増加を達成した。また、ファンクラブプチでは限定缶バッジを特典に追加し、令和5年度を超える口数を獲得しており、計画どおり進捗していると評価できる。今後もリピーター率の向上に取り組み、ファンクラブの裾野を広げていくことに期待したい。																																			
A	次年度の年度計画	[5]継続してファンクラブ募集に取り組むほか、法人ファンクラブについては営業戦略に基づく渉外営業を実施し、全体として前年度を超える会員数を目標とする。																																			

評価シート（個票）

通し番号		6																																				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																																				
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。																																				
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。																																				
	年度計画	番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信に繋げる。																																				
	評価事例	Ⅲ	・継続した情報発信 ・データ（HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等）を分析し、必要に応じた広報戦略の見直し																																			
		Ⅳ	・継続した情報発信によって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例																																			
Ⅴ		・継続した情報発信によって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例																																				
D	行動	・番組企画やロケーションの積極的な受け入れにより、受け入れ件数を令和5年度よりも増やすことができた。(59件→81件) ・受け入れた番組等の情報やイベント実施後の開催報告、定期的なイベント情報や営業日の情報、110周年のカウントダウン、ラジオ番組のアーカイブ動画など、ニーズが高いと見込まれる内容を新たに発信し、発信内容を充実させるとともに、情報発信件数を増やすことができた。 ・各投稿ごとの閲覧数、リーチ、エンゲージメント、コメント件数やホームページの各言語ごとの上位閲覧ページの閲覧数、SNSフォロワー数などのデータ収集を継続して行い、今後の分析に活用するデータの蓄積を行った。 ◆情報発信件数比較 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,481</td> <td>1,774</td> <td>1,348</td> <td>1,877</td> </tr> </tbody> </table> ◆SNSフォロワー数比較表 (人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X(旧Twitter)</td> <td>9,613</td> <td>15,468</td> <td>20,531</td> <td>25,849</td> </tr> <tr> <td>Instagram</td> <td>42,307</td> <td>47,190</td> <td>52,800</td> <td>58,725</td> </tr> <tr> <td>YouTube</td> <td>17,002</td> <td>18,951</td> <td>20,784</td> <td>21,812</td> </tr> <tr> <td>Facebook</td> <td>26,453</td> <td>27,266</td> <td>27,395</td> <td>27,379</td> </tr> </tbody> </table>				R3	R4	R5	R6	1,481	1,774	1,348	1,877		R3	R4	R5	R6	X(旧Twitter)	9,613	15,468	20,531	25,849	Instagram	42,307	47,190	52,800	58,725	YouTube	17,002	18,951	20,784	21,812	Facebook	26,453	27,266	27,395	27,379
R3	R4	R5	R6																																			
1,481	1,774	1,348	1,877																																			
	R3	R4	R5	R6																																		
X(旧Twitter)	9,613	15,468	20,531	25,849																																		
Instagram	42,307	47,190	52,800	58,725																																		
YouTube	17,002	18,951	20,784	21,812																																		
Facebook	26,453	27,266	27,395	27,379																																		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	・番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディア情報やイベント開催報告、ラジオ番組のアーカイブ動画発信など、各媒体や掲載先に適した発信が新たに確立できたため。 ・HP・SNSの閲覧実績やコメント内容の分析のため、データ収集を継続したため。																																		
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																																		
	ヒアリング結果	番組企画やロケーションの受入数の増加、110周年特設サイトの開設等、積極的に情報発信に努めており、計画どおり進捗していると評価できる。今後はHP・SNSの閲覧実績やコメント内容の分析等、定量・定性両面から分析の上、園の魅力向上につなげてほしい。																																				
A	次年度の年度計画	[6]ホームページの充実、番組企画やロケーションの積極的な受け入れを行い生物多様性の保全に関する理解に繋げるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信を行う。																																				

評価シート（個票）

7

通し番号		7		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。		
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	年度計画	園の基本情報や調査研究、種の保全等の取り組みを理解しやすくするため、多言語ホームページを充実させる。		
	評価事例	Ⅲ	・保全に関する情報等を発信する。 ・多言語HPのコンテンツが充実した場合	
		Ⅳ	・保全に関する情報等を発信したことによって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例 ・多言語HPのコンテンツが大幅に充実した場合	
Ⅴ		・保全に関する情報等を発信したことによって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例		
D	行動	・日本語ページの更新時に合わせて多言語化ページ（英語・中国語・韓国語）の更新も行った。 ・110周年特設サイトを日本語版と合わせて英語版・中国語版・韓国語版をそれぞれ作成し、公開した。 ・日本語のみだった調査研究に関するページを、多言語化ページ（英語・中国語・韓国語）に追加するため、翻訳等の準備を行った。 ・多言語ホームページの充実に向け、見直し箇所の検討や、各言語ごとのトップページおよび上位閲覧ページの閲覧数のデータ収集を継続して行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	特設サイトの作成・公開や、調査研究のページ追加準備、ページの充実に向けたデータ取得や内容見直し箇所の検討を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	園ホームページの多言語化は、一定完了していることに加え、調査研究に関するページについて充実を図った。今後は、より広く生物多様性の保全に関する取組を発信し、園の魅力向上に貢献してほしい。		
A	次年度の年度計画	[6] ホームページの充実、番組企画やロケーションの積極的な受け入れを行い生物多様性の保全に関する理解に繋げるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		8		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組み（研修、研修効果定着のための取組みなど、研修効果チェック）を体系的に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 方針に基づく研修実施と効果チェック等の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・ 前年度を超える来園者の満足度（原因分析含む）のあきらかな上昇	
Ⅴ		・ 前年度を超える来園者の満足度（原因分析含む）のはるかな上昇		
D	行動	5・6月 昨年度までのホスピタリティマインド醸成研修の効果検証に向けた実施手法を検討した。 7月 効果検証の評価基準を作成した。 8月 ホスピタリティマインドの評価にご協力いただく天王寺動物園ボランティアクラブ1915の方に、説明会を開催した。 9月 ホスピタリティマインドの定着度について検証した。 ※検証に協力いただいたボランティア 11名 10・11月 ホスピタリティマインド定着度チェックの結果を踏まえ研修内容を決定 2・3月 ホスピタリティマインド醸成研修実施 ※委託業者を含めて74名参加		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	天王寺動物園ボランティアクラブ1915の方にご協力いただきホスピタリティ研修の効果を検証できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ボランティアクラブの協力を得て、これまでの効果を検証した上で研修を実施するなど新たな取組を実施しており、計画どおり進捗していると評価できる。今後も引き続き来園者満足度向上に向けて取り組んでほしい。		
A	次年度の年度計画	[7]引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を体系的に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		9		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声等を踏まえた美観保持に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・定期点検の継続実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・継続した定期点検により新たに快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・継続した定期点検により新たに快適な園内環境の創出にはるかに貢献できた事例		
D	行動	6月 令和5年度実施した巡視で指摘があった箇所について改善されているかを調査 7月 各課の修繕状況及び修繕完了予定日を把握するため進捗管理シートの作成を各課に依頼。 9月 進捗管理シートを集約し、各課に課内での周知実施 10月～12月 指摘を受けていた箇所について改修・改善を実施 1月 巡視点検の実施 令和6年度修繕箇所20箇所		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	定期点検を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	快適な園内環境の創出に向けて、着実に定期点検と改修・改善を実施しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[8]定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声等を踏まえた美観保持に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		10		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。		
	評価事例	Ⅲ	・園内掲示物の点検及び更新の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・園内掲示物の点検及び更新を行ったことにより新たに快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できた事例	
Ⅴ		・園内掲示物の点検及び更新を行ったことにより新たに快適な園内環境の創出にはるかに貢献できた事例		
D	行動	巡視点検時及び通常業務時等、法人職員が適宜園内を点検し、令和5年度に策定したアクションプログラムの内容が掲示物の内容に反映されているのかを確認し、アクションプランにそぐわない掲示物については随時更新してきた。 とくに、ゲート付近の掲示物について、統一感がなく、発信情報過多になっていたため、整理するとともに、劣化したサインについては適宜交換した。 また、サイン会議では、アクションプログラムに沿って議論をしているか適宜確認した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	園内掲示物の点検を行い、ゲートエリアを中心にサインの整理を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	園内掲示物整備アクションプログラムに基づいて取組を行い、計画どおり進捗していると評価できる。今後も快適な園内環境の創出に向けてさらなる取組に期待したい。		
A	次年度の年度計画	[9]「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。		

評価シート（個票）

通し番号		11		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	令和5年度に完了した実施設計に基づき、ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備の着実な実施	
		Ⅳ	・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインを採用し快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できるといえる場合	
Ⅴ		・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインを採用し快適な園内環境の創出にはるかに貢献できるといえる場合		
D	行動	・ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設とするため、施工業者から提出される施工図の確認及び現場施工状況等の確認を適時に実施した。 ■施工済み箇所（R6年度末時点）■ ・以下の2施設で円滑な移動・観覧ができるように配慮した整備を行った。 （アジアの森（拡張）） ・工事によるメイン園路通行止に伴う切替園路（鳥の楽園側：7月30日切替開通）における、幅員(4m以上)の確保、勾配1/12.5以下、手摺設置 （アフリカの森（改修）） ・改修で生じる高低差（園路と屋内展示空間：約20cm）に対する、勾配1/12以下スロープの設置、手摺設置		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	観覧環境に配慮した施設整備を実施しているため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	現場の施工状況を踏まえて、適宜業者と調整を図りながら整備しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[10] 令和7年度完成予定の施設（ホッキョクグマ舎、アジアの森）について、ユニバーサルな観覧環境に配慮した整備を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		12																																																																																					
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																																																																																					
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。																																																																																					
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。																																																																																					
	年度計画	継続して、来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む）																																																																																					
	評価事例	Ⅲ	・来園者の声を分析し園運営を改善																																																																																				
		Ⅳ	・園運営を改善したことによって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例																																																																																				
Ⅴ		・園運営を改善したことによって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例																																																																																					
D	行動	月始めに毎月のアンケート結果の分析を行い職員に周知した。 お客様満足度アンケート収集数50を目標に、収集数が少ない場合は、法人職員がミュージアム付近で収集を行った。 5月 質問項目を改定し、2点項目を追加（動物園の情報収集方法、来園動機） 6月 多言語（英語版、中国語版、ハングル版）でのお客様満足度アンケートの収集を開始 園内のテーブルベンチ及びお手洗いにアンケート収集のQRコードを掲示（約120箇所） 12月 劣化しているサインについては随時交換 3月 年間アンケートまとめ 改善事例：工事によって、てんしばゲートから北園方面への園路がわかりにくいとお声をたくさんいただいたため、 クマ舎、ペンギンパークアシカワーフの間に4面のポスター掲示物を作成し、園路案内に努めた。																																																																																					
		令和6年度お客様満足度アンケート収集数																																																																																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度 ※日本語のみ</td> <td>362</td> <td>98</td> <td>50</td> <td>34</td> <td>57</td> <td>41</td> <td>62</td> <td>52</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>46</td> <td>51</td> <td>956</td> </tr> <tr> <td>R6年度 日本語</td> <td>327</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>51</td> <td>47</td> <td>48</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>90</td> <td>59</td> <td>46</td> <td>78</td> <td>957</td> </tr> <tr> <td>外国語（英・中・韓）</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>47</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>31</td> <td>11</td> <td>33</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>R6年度 合計</td> <td>327</td> <td>54</td> <td>43</td> <td>98</td> <td>72</td> <td>66</td> <td>72</td> <td>78</td> <td>112</td> <td>90</td> <td>57</td> <td>111</td> <td>1180</td> </tr> </tbody> </table>																	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度 ※日本語のみ	362	98	50	34	57	41	62	52	47	56	46	51	956	R6年度 日本語	327	54	37	51	47	48	55	65	90	59	46	78	957	外国語（英・中・韓）	-	-	6	47	25	18	17	13	22	31	11	33	223	R6年度 合計	327	54	43	98	72	66	72	78	112	90	57	111	1180
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																																																								
R5年度 ※日本語のみ	362	98	50	34	57	41	62	52	47	56	46	51	956																																																																										
R6年度 日本語	327	54	37	51	47	48	55	65	90	59	46	78	957																																																																										
外国語（英・中・韓）	-	-	6	47	25	18	17	13	22	31	11	33	223																																																																										
R6年度 合計	327	54	43	98	72	66	72	78	112	90	57	111	1180																																																																										
																																																																																							
C	法人の自己評価	Ⅲ		評価理由	お客様の声を反映しベンチなどを設置したため。また、これまで収集できなかった海外からの来園者の意見も収集したため。																																																																																		
	市の評価	Ⅲ		評価理由	法人評価のとおり																																																																																		
	ヒアリング結果	園内のテーブルベンチ、トイレへのQRコード設置、外国語アンケートの収集開始など、新たな取組を実施した。来園者の声の分析を踏まえ、ベンチの設置、サインの交換に取り組んでおり計画どおり進捗していると評価できる。今後も継続して情報収集を行いつつ、さらなる園の魅力向上につなげてほしい。																																																																																					
A	次年度の年度計画	[11]来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。）																																																																																					

評価シート（個票）

通し番号		13		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する		
P	中期計画	第1-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。		
	年度計画	ペンギンパーク&アシカワーフの「おやつ・ごはんタイム」について、より環境問題についての理解を深める内容とするため、アンケートの分析結果に基づいた評価を実施し、プログラムの改善を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・ペンギンパーク&アシカワーフでの教育的イベントの評価または改善の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・教育的イベント実施により、教育普及活動にあきらかに貢献した事例	
Ⅴ		・教育的イベント実施により、教育普及活動にはるかに貢献した事例		
D	行動	5月末までのアンケートの集計内容を一旦集約・分析したが、概ね好意見が多かったこと、加えてアシカによる咬傷事故や欠員により、トレーニング方法の再構築などが必要であったため、アシカについては「ごはん・おやつタイム」の改善までは至らなかった。 一方、ペンギンにおいてはアンケートの母数が少なかったため、QRコードの読み取りで回答できるようにするとともに、設問を簡潔にすることで、親子のコミュニケーションツールとして活用できるよう改善した。 ※アンケートの内容 ・ペンギンの主食はなにか、野生のペンギンの生息状況、おやつタイム・ごはんタイムでもっと聞きたい内容など		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	「ごはん・おやつタイム」の改善までは至らなかったが、アンケートでは9割近くの好意見があり、ペンギンの「ごはん・おやつタイム」におけるアンケートについて、回答しやすくするため二次元コード化や設問の再設定など一定の改善策を講じたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	トレーニング方法の再構築に取り組みながら、アシカそれぞれの個体について紹介を増やすなど、来園者に楽しんでもらうよう工夫しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[13]おやつ・ごはんタイムの内容について再検討し、動物の生態等に関する理解や関心を深めてもらえるよう改善する。		

評価シート（個票）

通し番号		14																												
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																												
		第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。																												
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習機活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。																												
	年度計画	「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューを継続実施し、その実施アンケート結果に基づいてメニューを改善する。																												
	評価事例	Ⅲ	・教育普及アクションプランに基づくメニューの実施 （指標：前年度と同水準）																											
		Ⅳ	・教育アクションプランに基づく取り組みにより教育普及活動にあきらかに貢献した事例																											
Ⅴ		・教育アクションプランに基づく取り組みにより教育普及活動にはるかに貢献した事例																												
D	行動	教育普及アクションプランに基づくイベントやワークショップを開催し、多くの利用者に行動変容を促せるような教育普及活動を実施した。 (1) ディスカバー・プログラム ディスカバー・プログラムに動物ショート・ガイドをメニューとして復活させた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5年度実績</th> <th>R6年度集計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・講話、ガイドウォーク</td> <td>79件</td> <td>131件</td> </tr> <tr> <td>・動物ショート・ガイド</td> <td>-</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>・職場紹介</td> <td>12件</td> <td>24件</td> </tr> <tr> <td>・飼育体験</td> <td>11件</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>・オンライン講話</td> <td>2件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>・出張レクチャー（市内）</td> <td>42件</td> <td>52件</td> </tr> <tr> <td>・（市外）</td> <td>30件</td> <td>64件</td> </tr> <tr> <td>・貸出キット・標本貸出し</td> <td>32件</td> <td>22件</td> </tr> </tbody> </table> （※大阪信用金庫 R5 39件 R6 76件） (2) 「園長におまかせ！」講話 6件 6件 (3) 動物とおき話 24件 24件 ★「生物多様性展 鳥編～なんや、鳥か… なんて言わせない！鳥のフシギ～」 3/12（火）～4/7（日）来場者数：16,100人（入園者数比9.6%） ★企画展「戦時中の動物園」 8/3（土）～9/1（日）来場者数：24,803人（入園者数比24.0%） ★企画展「ヒミツのジュウイSHOW」 10/26（土）～11/4（月祝）来場者数：3,386人（入園者比4.4%） ★企画展「千支の動物展」 12/20（金）～1/13（月祝）来場者数：35,034人（入園者数比26.6%） ★ディスカバー・プログラム利用者アンケート 「生き物が暮らす環境を守っていくために、身近にできることは何かありますか？」との設問に対して、「ごみのポイ捨てをしない、食べ物大切にす など。」、「生き物が暮らしやすい環境とはどういう環境か、など意識を向ける。」、「関心を持って情報を集めていきたい。積極的にプログラムなどに参加したい。」、「環境に優しい生活をする。また、それらを身近な人に伝え続けること。」等の意見が寄せられ、行動変容につながる回答が得られている。			R5年度実績	R6年度集計	・講話、ガイドウォーク	79件	131件	・動物ショート・ガイド	-	3件	・職場紹介	12件	24件	・飼育体験	11件	10件	・オンライン講話	2件	1件	・出張レクチャー（市内）	42件	52件	・（市外）	30件	64件	・貸出キット・標本貸出し	32件	22件
	R5年度実績	R6年度集計																												
・講話、ガイドウォーク	79件	131件																												
・動物ショート・ガイド	-	3件																												
・職場紹介	12件	24件																												
・飼育体験	11件	10件																												
・オンライン講話	2件	1件																												
・出張レクチャー（市内）	42件	52件																												
・（市外）	30件	64件																												
・貸出キット・標本貸出し	32件	22件																												
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	教育普及アクションプランに基づくイベントやワークショップを開催し、アンケート結果から利用者の行動変容に繋がっていることが窺える教育普及活動ができたため。																										
	市の評価	Ⅲ	評価理由	メニューの実施件数増加に加え、アンケートの回答からも利用者の行動変容を促したことが確認できたため																										
	ヒアリング結果	企画展等を継続して実施しているほか、ディスカバー・プログラムや教育普及イベントの実施件数は増加した。利用者アンケートでも行動変容を促した内容が確認でき、計画どおり進捗していると評価できる。今後も行動変容にかかる測定方法の改善やイベントの質的向上を通じて、教育普及活動のさらなる発展に期待したい。																												
A	次年度の年度計画	[14]令和6年度のアンケート結果を基に課題を抽出し、「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューやその内容について、改善を図り、より高い教育効果へつなげる。																												

評価シート（個票）

通し番号		15		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習機活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やすほか、NPO法人や大学等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。		
	評価事例	Ⅲ	・ボランティアの活動機会の増加 ・NPO法人や大学等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会が増加 （指標：前年度の水準以上）	
		Ⅳ	・学習機会を提供したことにより教育普及活動にあきらかに貢献した事例	
Ⅴ		・学習機会を提供したことにより教育普及活動にはるかに貢献した事例		
D	行動	「ボランティア1915」の応募者に対し、活動機会を増やすためイベント数を増やした。また、「ボランティア1915」会員も令和6年度末で28名となった。 令和6年度当初 会員14名 令和6年度 7月 会員17名（+3名） 令和6年度11月 会員24名（+8名、△1名） 令和6年度 3月 会員28名（+4名） ◆ボランティア活動実績 6月 カバの歯磨きイベントへ参加（R6より） はみがきうさぎのカムカムどうぶつえんへ参加（R6より） 7月 イベントの実施報告のブログでボランティアの活動も紹介 ボランティア育成講座の実施及びブログで実施報告 8月 ナイトズーでのとっておき話等へ参加 ホッキョクグマお魚プレゼントへ参加（R6より） 9月 ナイトズーでのとっておき話等へ参加 ホスピタリティマインド定着度チェックへの参加（R6より） 11月 SDGZooのイベントへ参加 ホッキョクグマのバースデーイベントへの参加 12月 音声ガイドアプリ実証実験（R6より） 大阪府警青少年ボランティアによる旧ふれあい広場清掃活動参加（R6より） 2月 ホッキョクグマ保全に向けた環境教育イベント 猛獣脱出訓練（R6より） 3月 はみがきうさぎのカムカムどうぶつえん ドリームデイ・アット・ザ・ズー（事前講習含む）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ボランティア会員数を増やし、活動機会も増やしているため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ボランティア会員数の増加は目標に達しており、法人の努力が顕著に現れている。さらに、活動機会も増加しており計画どおり進捗していると評価できる。今後は、来園者の学習機会増加につながることを期待する。		
A	次年度の年度計画	[15]「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やす。 また、NPO法人や学校・企業等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。		

評価シート（個票）

通し番号		16		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際の確認を徹底するとともに、既存獣舎についても定期的に施設チェックを行う。また、事故の風化を防ぐため、継続的な安全教育を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ヒヤリハットの定期的な事例共有及びマニュアルの定期的な検証 ・R5に発生した逸走事故を踏まえた安全教育の実施	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	飼育管理マニュアルの定期検証を上半期および下半期の2回実施した。検証の結果マニュアルとの齟齬は認められなかった。 獣舎整備に係る確認として、チンパンジー舎の改修工事について、逸走防止の観点から外部有識者の現場確認を含め、必要な確認を実施した。 ヒヤリハットについては原則的に事例が起こった当日に記載するシートを作成、共有し、当日出勤の管理職が原因、再発防止について確認およびコメントを付し、全課へ供覧する取扱いとした。 予算措置を講じた特定動物の獣舎における飼育管理通路への監視カメラ等の設置完了。 ・ライオン舎監視カメラ ・オオカミ舎監視カメラ ・ジャガー舎監視ミラー		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	定期検証の確実な実施や安全管理に係る監視カメラの設置など事故防止のための措置が一定完了したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	飼育管理マニュアルの定期検証および獣舎整備の確認に加え、監視カメラ等の設置を完了しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[16] 令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際、逸走防止の観点を重視した確認を徹底するとともに、ヒヤリハットについては即時記録、即時共有を図り、安全衛生委員会での共有を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		17		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む		
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。		
	年度計画	「環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニング取り組み方針」で定めた取り組み種の進捗：トレーニング92.5%について100%を目指す。エンリッチメントについては100%となっているため、質の向上を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・取り組み種の継続実施および拡充と効果検証 (R5目標＝ハズバンダリートレーニング：37種、エンリッチ：57種)	
		Ⅳ	・拡充および効果検証したことによる飼育技術があきらかに高度化した事例	
Ⅴ		・拡充および効果検証したことによる飼育技術がはるかに高度化した事例		
D	行動	【トレーニング実施状況】37種→40種（3種増） ①クロシロエリマキツネザル：体重測定、ケージ収容 ②ドリル：シュート収容 ③モモイロインコ：体重測定 ・継続種の到達レベルアップ ①マレーグマ：口開けトレーニングは安定して実施可能な状態。 ②カリフォルニアシカ：健康管理のために体への接触時間を延ばしたり、接触できる部位（箇所）を増やしている。 ※飼育員が意図した行動を動物がより確実にとることができるように今後努める。 【環境エンリッチメント実施状況】57種→59種（2種増）対象種の増 ①ハイエナ：Amazon欲しいものリストの自動給餌器を活用し、ランダムな時間にフードが出てくることで運動量や行動レパトリーの増加をはかっている。 ②モモイロインコ：Amazon欲しいものリストの自動給餌器を活用し、ランダムな時間にフードが出てくることで運動量や行動レパトリーの増加をはかっている。 ・継続種の状況 ①フサオマキサル：共同研究期間のみフィーダーを設置していたが、現在は常にフィーダーを設置。フィーダーの種類も動物の反応をみながら変更している。 ②コンドル：ケージに誘導可能な状態から、ケージ内での滞留時間を伸ばしたり、落ち着いている状態をキープできるようトレーニングを継続している。 【参考】 R6年度当初＝R5年度末時点実績 トレーニング：40種中 37種実施 エンリッチメント：57種中 57種実施 2月、当園において日本動物園水族館協会 調査研究委員会アニマルウェルフェア研究部第2回シンポジウム「環境エンリッチメントの実践とその評価に関するワークショップ」を開催し、当園の動物を対象に、エンリッチメントアイテムの作製を実践し、効果の測定を行った。（対象動物7種） 他の園館職員とともに環境エンリッチメントアイテムを検討し作製することができ、職員学びとともに当園の動物福祉向上につながった。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	令和3年度に策定した「環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニングに関する方針」に掲げた対象種について、すべての種においてトレーニング及びエンリッチメントの実施をしており、継続と質の向上に取り組んだ。加えて、環境エンリッチメントワークショップを開催し、他の園館の環境エンリッチメントについて学び実践することで動物福祉を向上させることができたため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ハズバンダリートレーニング、環境エンリッチメント双方とも取り組み種100%を達成した。また、対象種を拡大したほか、他園館より参加者を募り、エンリッチメントワークショップを開催するなど、新しい知見の獲得に積極的に取り組んでおり、計画以上に進捗していると評価できる。今後もその質を維持しながら、さらなる向上に期待したい。		
A	次年度の年度計画	[17]「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取り組み方針」で定めた取組み種について、トレーニング実施種を37種から目標種数である40種（実施率100%）を目指す。また、環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングともに量的評価だけではなく、対象個体の行動レパトリーの評価等、質的評価の導入を検討し、飼育動物の生活の質向上を進めるとともに、実施職員の増加により技術向上に努める。		

評価シート（個票）

通し番号		18		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	新病院・研究棟整備の基本構想（令和7年度策定予定の基本計画のベースとなるもの）を、引き続き関係部署からなるPTにて協議し、策定する。		
	評価事例	Ⅲ	・基本構想の策定 ・基本計画委託条件の整理	
		Ⅳ	・診療・研究環境が向上し、かつ予算をあきらかに下回る基本構想内容	
Ⅴ		・診療・研究環境が向上し、かつ予算をはるかに下回る基本構想内容		
D	行動	・新病院・研究棟PTを中心に、基本構想で必要となる条件やこれまで収集してきた情報等を整理し、基本構想を令和7年3月31日に策定した。 ・策定にあたっては、PTメンバーのほか園長や各課職員および施設整備にかかる外部有識者の意見を反映した。 ・情報収集では、新病院や研究棟への参考とするため、大学の獣医学部の施設を調査した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	新病院基本構想を策定したため（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人内PTにて意見集約を行い、基本構想を策定しており計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[18] 令和6年度策定した「（仮称）新病院・研究棟／調理場 整備事業 基本構想」を踏まえ、基本計画を策定する。		

評価シート（個票）

19

通し番号										
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。								
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。								
	年度計画	第一期リニューアル整備事業に関して令和6年度当初の計画工程に対し、年度末の年度進捗率が100%となるよう整備を実施する。								
	評価事例	Ⅲ	・計画どおりの進捗（整備費増額・工期延長などの未然防止）							
		Ⅳ	・予算増額を伴わずかつ計画をあきらかに上回る飼育環境の整備事例							
Ⅴ		・予算増額を伴わずかつ計画をはるかに上回る飼育環境の整備事例								
D	行動	・アフリカの森（チンパンジーベース）は、3月末までに完成した。 ・アジアの森（拡張）・ホッキョクグマ舎では、現場着手後に地中障害物等※が発見され、除去等による工程遅延が約3ヶ月程度発生したため、年度進捗率が100%未満[令和6年度予算額まで出来高が未達（61.5%）]となった。 ※工事遅延の理由 ・地中障害物……撤去されず地中に残置されたままの障害物の除去（建物の基礎、不要となった埋設管、レンガや（鉄筋）コンクリート、アスファルト等の殻など） ・不明埋設管……埋設管で図面に記載がなく、埋設場所、種類、現役管か廃止管等の調査や、施工場所に支障となる埋設管の迂回対策 ・アスベスト撤去……アスベスト含有建材が使用されているかを調査し、含有されていれば防護措置を施しながら撤去 ※第1期リニューアル工事の整備獣舎変更について（令和6年度） <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度当初</th> <th>令和6年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・ホッキョクグマ舎（工事） ・休憩エリア（設計） ・アフリカの森ゾーン（工事） ・樹上の森（設計） ・アジアの森拡張（工事） </td> <td> ・ホッキョクグマ舎（工事） ・休憩エリア（設計） ・アフリカの森ゾーン（工事） ・樹上の森（設計） ・アジアの森拡張（工事） </td> </tr> <tr> <td> ・新猛禽舎（設計・工事） ・日本の里（設計・工事） ・アジアの高地（設計・工事） ・新夜行性動物舎（設計・工事） </td> <td> ・新猛禽舎（一部設計まで） ・日本の里（一部設計まで） ・アジアの高地（計画まで） ・新夜行性動物舎（計画まで） </td> </tr> </tbody> </table>			令和6年度当初	令和6年度末	・ホッキョクグマ舎（工事） ・休憩エリア（設計） ・アフリカの森ゾーン（工事） ・樹上の森（設計） ・アジアの森拡張（工事）	・ホッキョクグマ舎（工事） ・休憩エリア（設計） ・アフリカの森ゾーン（工事） ・樹上の森（設計） ・アジアの森拡張（工事）	・新猛禽舎（設計・工事） ・日本の里（設計・工事） ・アジアの高地（設計・工事） ・新夜行性動物舎（設計・工事）	・新猛禽舎（一部設計まで） ・日本の里（一部設計まで） ・アジアの高地（計画まで） ・新夜行性動物舎（計画まで）
		令和6年度当初	令和6年度末							
・ホッキョクグマ舎（工事） ・休憩エリア（設計） ・アフリカの森ゾーン（工事） ・樹上の森（設計） ・アジアの森拡張（工事）	・ホッキョクグマ舎（工事） ・休憩エリア（設計） ・アフリカの森ゾーン（工事） ・樹上の森（設計） ・アジアの森拡張（工事）									
・新猛禽舎（設計・工事） ・日本の里（設計・工事） ・アジアの高地（設計・工事） ・新夜行性動物舎（設計・工事）	・新猛禽舎（一部設計まで） ・日本の里（一部設計まで） ・アジアの高地（計画まで） ・新夜行性動物舎（計画まで）									
C	法人の自己評価	Ⅱ	評価理由	当初の計画工程に対する年度進捗率が100%に達しないため						
	市の評価	Ⅱ	評価理由	法人評価のとおり						
	ヒアリング結果	工事途中で発見した地中障害物の撤去や不明埋設管の調査・移設、アスベスト対策に時間を要し、当初の計画工程に対する進捗率を達成できなかった。								
A	次年度の年度計画	[19]第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎を完成させる。								

評価シート（個票）

通し番号		20																											
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																											
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。																											
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。																											
	年度計画	維持管理計画に基づくとともに、動物福祉の観点にも配慮し必要な小規模改修を計画的に実施する。																											
	評価事例	Ⅲ	・計画に基づいた改修の着実な実施 （指標：前年度と同水準）																										
		Ⅳ	・補修・点検・改修を着実に実施したことによるあきらかな飼育環境向上の事例 ・予算増額を伴わない計画をあきらかに上回る改修の進捗																										
Ⅴ		・補修・点検・改修を着実に実施したことによるはるかな飼育環境向上の事例 ・予算増額を伴わない計画をはるかに上回る改修の進捗																											
D	行動	・小規模改修について、施設課および契約事業者と協議、確認しつつ実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>改修箇所</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旧コアラ舎</td> <td>屋上、天井 階段、屋外放飼場</td> <td>屋上防水、天井ボード張替 手すり設置、観覧ガラス枠更新</td> </tr> <tr> <td>アイファー</td> <td>階段</td> <td>手すり設置</td> </tr> <tr> <td>オオカミ舎</td> <td>人止め柵</td> <td>格子設置</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">カバ舎</td> <td>出入口扉</td> <td>建具改修</td> </tr> <tr> <td>水処理設備</td> <td>更新（ポンプ交換等）</td> </tr> <tr> <td>鳥の楽園</td> <td>水処理設備</td> <td>更新（ポンプ交換等）</td> </tr> <tr> <td>サイ舎</td> <td>排水設備</td> <td>更新（ポンプ交換等）</td> </tr> <tr> <td>動物病院</td> <td>ブレハブ冷蔵庫</td> <td>更新</td> </tr> </tbody> </table> ・施設管理点検に基づく補修・点検について、軽微な故障箇所については、各担当との確に調整を行い、包括管理事業者による改善を適時に実施した。重大な故障箇所の確認はなかった。 ◆令和6年度修繕件数：114件（内、緊急修繕10件） ※令和5年度修繕件数：73件（内、緊急修繕12件） ・樹木の維持管理については、包括管理事業者の業務範囲も含め、危険樹木等を撤去した。		施設名	改修箇所	主な内容	旧コアラ舎	屋上、天井 階段、屋外放飼場	屋上防水、天井ボード張替 手すり設置、観覧ガラス枠更新	アイファー	階段	手すり設置	オオカミ舎	人止め柵	格子設置	カバ舎	出入口扉	建具改修	水処理設備	更新（ポンプ交換等）	鳥の楽園	水処理設備	更新（ポンプ交換等）	サイ舎	排水設備	更新（ポンプ交換等）	動物病院	ブレハブ冷蔵庫	更新
	施設名	改修箇所	主な内容																										
旧コアラ舎	屋上、天井 階段、屋外放飼場	屋上防水、天井ボード張替 手すり設置、観覧ガラス枠更新																											
アイファー	階段	手すり設置																											
オオカミ舎	人止め柵	格子設置																											
カバ舎	出入口扉	建具改修																											
	水処理設備	更新（ポンプ交換等）																											
鳥の楽園	水処理設備	更新（ポンプ交換等）																											
サイ舎	排水設備	更新（ポンプ交換等）																											
動物病院	ブレハブ冷蔵庫	更新																											
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画等に基づく改修・点検を着実に実施しているため。 （評価事例のとおり）																									
C	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																									
	ヒアリング結果	維持管理計画に基づいて点検・改修を実施したほか、計画外の緊急修繕についても対応しており、計画どおり進捗していると評価できる。																											
A	次年度の年度計画	[20] 既存獣舎の点検・補修について、維持管理計画に基づき実施するとともに、動物福祉の観点にも考慮し必要な小規模な改修を計画的に実施する。																											

評価シート（個票）

通し番号		21		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じてチェックポイントの見直しを継続する。		
	評価事例	Ⅲ	・チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直し実績 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・チェックポイントを見直したことにより、種の保存にあきらかに貢献した事例 ・チェックポイントに基づき取り組んだ結果、繁殖に成功した場合	
Ⅴ		・チェックポイントを見直したことにより、種の保存にはるかに貢献した事例		
D	行動	・繁殖に向けたチェックポイントについては継続実施した。 ・並行してチェックポイント項目の妥当性の検証、変更を行った。 ・新たなペアの可能性を探るため、ブチハイエナ、ソデグロゾルの新規個体導入に向けて情報収集をおこなった。 ・新たなペア形成のため、日本動物園水族館協会チンパンジー繁殖計画のもと、3月にチンパンジーのメス1頭を導入した。（当園で飼育しているオスとの同居は令和7年度に開始するため、チェックシートへの追加検討は令和7年度に行う予定）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	チェックポイント項目を見直し、着実に実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	繁殖に向けたチェックポイントに基づく取組を継続したほか、内容について見直し、変更を行っていることから計画どおりに進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[21] 繁殖推進種ごとに新たな繁殖推進種における環境整備項目（チェックポイント）を設定し、繁殖に向けて継続的に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		22		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	オグロヅルの継続的な精液採取や他園館との連携によるメスへの精液注入など人工繁殖に向けて取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・オグロヅルの繁殖へ向け継続した取り組み	
		Ⅳ	・オグロヅルの人工繁殖により種の保存にあきらかに貢献した事例	
Ⅴ		・オグロヅルの人工繁殖により種の保存にはるかに貢献した事例		
D	行動	・オグロヅル（オス）の人工採精のための技術習熟活動を継続した。また、他園への精液提供に向けた輸送容器内の温度検証を実施した。採精手技習得のために頻回で採精を試行した。 ・平川動物園から産卵後に連絡を受け、当園個体から採取した精液を空輸したが受精には至らなかった。 ・埼玉県こども動物自然公園および平川動物公園と人工授精を実施するための手順を含む覚書を締結し、当園のオスから採精した精液を当日に輸送し、相手先のメスへ人工授精する手順を整えた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	人工授精に向けた実務的な調整を進め、実際に人工授精が可能ないように実施手順を整えたため。また、定期的に採精練習を行い、再現性向上に努めたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	オグロヅルの繁殖に向けた取組を継続したほか、平川動物園への精液空輸、他園館と覚書を締結するなど、計画どおり着実に進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[22]繁殖相手方の産卵（無精卵）のタイミングにあわせ、採精できるよう、オグロヅル（オス）の精液採取手技の確立に引き続き取り組むとともに、実際の人工授精を目指す。		

評価シート（個票）

通し番号		23	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。	
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等により引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。	
	年度計画	・ニホンイシガメについて保全につながる啓発活動を行い来園者の理解を深める。 ・オオサンショウウオの保全につながる企画を立案し実施する。また、生息地の調査に同行し、保全の知識や調査手法の獲得に努める。	
	評価事例	Ⅲ	・繁殖実績及び企画展の実施 ・ニホンイシガメまたはオオサンショウウオの保全に繋がる企画の立案（指標：前年度と同水準）
		Ⅳ	・企画展の実施により、種の保存にあきらかに貢献した事例
Ⅴ		・ニホンイシガメの先駆的な繁殖実績 ・企画展の実施により、種の保存にはるかに貢献した事例	
D	行動	【ニホンイシガメ】 ・今年度の繁殖は収容可能頭数が上限に達しているため制限したが、他施設からの個体提供依頼あるいは研究のために必要な繁殖や、新たな屋外施設（日本の里）の整備後に展示強化の目的であれば、いつでも繁殖を再開できる状況である。 ・ニホンイシガメについての生態や現状について専門家を招いて普及啓発のための講演会を開催し、「（乱獲につながるため）ペットショップではイシガメを買わない」「勝手な遺棄などをしない。（イシガメが）減っていることなぜ減っているのかをたくさんの人に伝える」「今飼育している個体を逃がさない。周りに亀を逃がしてもいいという意識の人がいたら現状を伝えてわかってもらう」など行動変容につながるアンケート結果を複数得た〔2/24（月）実施〕。 【オオサンショウウオ】 ・オオサンショウウオの保全につながる企画に基づき大阪府内の域内保全活動（生息地調査）へ、継続的に職員が参画した。（計8回）。野生でのオオサンショウウオの生息環境や特定外来生物に指定された交雑種オオサンショウウオの現状を調査することにより、生息地域の環境保全、当園での飼育環境の改善や今後目指すべき繁殖の成功につながる知見を得ることができた。 ・オオサンショウウオについての生態や現状について専門家を招いて普及啓発のための講演会を開催し、「積極的に学んで伝えていく」「環境のことを考えて水や草木を大切に」「オオサンショウウオをみつけてもさわらずにみまもる」など行動変容につながるアンケート結果を複数得た〔3/23（日）実施〕。 2月の国際ホッキョクグマの日に関連するイベントで、札幌市円山動物園、よこはま動物園ズーラシア、静岡市立日本平動物園および当園の計4園で、合計1,647,360円の寄付金を集めることができ、グッズ製作費を除く全額を保全教育団体SheoZを通じてホッキョクグマの保全団体に寄付することができた。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 ニホンイシガメおよびオオサンショウウオに関する啓発活動を実施し、行動変容につながるアンケート結果を複数得たこと、ホッキョクグマの日イベントで来園者の行動変容（募金など）があったため。 また、オオサンショウウオについて大阪府下の生息域内保全活動へ職員が継続的に参画したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	ニホンイシガメについては繁殖を保留している状況であるが、オオサンショウウオについては府内の域内保全活動に継続して参加し、生息環境等調査を実施した。普及啓発の講演会開催も含め、計画どおり進捗していると評価できる。	
A	次年度の年度計画	[23] オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行し、生息域内保全への取組の足掛かりとする。これに伴い、生息情報の蓄積と啓発活動を行い、府民の生息域内保全への理解を深める。	

評価シート（個票）

通し番号		24		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-（2） 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-（2） 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・調査研究の継続 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・調査研究を継続した事により、飼育管理等にあきらかに貢献した事例 ・園独自もしくは連携協定による具体的な調査研究の成果があらわれた場合	
Ⅴ		・調査研究を継続したことにより、飼育管理等にはるかに貢献した事例 ・査読付き学術誌掲載レベルの論文の執筆		
D	行動	各班1つ以上の研究テーマを設定し研究を進めるとともに、外部機関との共同研究を積極的に受け入れ、実施した。 ◆各班の研究テーマ及び進捗状況 【1班】「ニホンインガメのシェルロットに対する治療法の検討」 ⇒詳細を決定し、治療を開始。実施して多少の効果を認めるも、動物の状態に個体差があり効果判定が難しい。 【2班】「ハクビシンの行動調査」 ⇒目視での行動変化とクレートトレーニングの経緯についてまとめた。 「ホッキョクグマの展示時間中のボール利用率の調査」 ⇒データ分析中。 【3班】「ヨウスコウワニ屋内・バックヤードベアの継続した繁殖と、屋外ベアによる繁殖に向けた環境整備と飼育管理」 「チリーフラミンゴとベニイロフラミンゴの継続した繁殖と、雛の生存率を上げるための環境改善」 「ハミルトンガメの繁殖を目指した環境整備」 ⇒3件とも環境整備は行ったが、今年度は繁殖が見られず（ヨウスコウワニは無精卵のみ） 【4班】「キリンの動画確認による睡眠時間の分析」 ⇒一定の結果が得られており、動画編集後には発表の可能性 【5班】「ライオンの減量&トレーニング」 ⇒メスに関しては仮に設置した板に乗る所まで進み、体重測定を目指す。 【ふれんどしゅぶ】テンジクネズミの体重管理 ⇒群での餌管理を中心としたダイエットを実施、体重数値や目視による体格での効果は一定得られており、体重の数値や餌内容のデータは適宜記録している。今後も継続予定。 【企画】「飼育業務と幸福度との関連に関する調査」 ⇒論文としてまとめ、令和7年度投稿予定。 ・「Proximity and preening in captive Humboldt penguins」（近畿大学）Behavioural Processes掲載 ・「Captive polar bear cub's humming in the maternity den」（大阪大学）国際クマ会議口頭発表 ・「Conservation genetics of critically endangered Black rhinoceros」（京都大学）第17回アジア野生動物医学会ポスター発表（優秀ポスター受賞賞）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	園内、他施設との共同研究とともに調査を継続して実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度も飼育各班に研究テーマを割り当て、研究と飼育の両立を実践し、定着に向けて継続できている。また、令和6年度は顕著な研究成果はなかったものの、アジア各国の集う国際学会において、園の共同研究が優秀ポスター賞を受賞するなど、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[24]「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		25																																					
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。																																					
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。																																					
	年度計画	園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。																																					
	評価事例	Ⅲ	・園HPの充実 ・共同で進めている研究実績などの発表（指標：前年度と同水準）																																				
		Ⅳ	・複数の異なる職員による研究発表 ・園内およびHPなどでの公表 ・知見を共有かつ研究発表した事により、飼育管理等にあきらかに貢献した事例																																				
Ⅴ		・知見を共有かつ研究発表した事により、飼育管理等にはるかに貢献した事例 ・学術学会での各種賞の受賞																																					
D	行動	近畿ブロックの会議を含むJAZAの研究会、会議等で研究成果を発表した。共同研究については、許可が得られたものは園内でのポスター掲示や、ホームページで公表した。 ◆発表状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>研究会名</th> <th>開催場所</th> <th>演題名</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/25</td> <td>近畿ブロック動物園飼育係研修会</td> <td>王子動物園</td> <td>エランド搬出に向けた箱入れ誘導トレーニング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7/3</td> <td>近畿ブロック臨床研究会</td> <td>アトア</td> <td>チュウゴクオオカミに対する「安楽殺実施ガイドライン」の運営について</td> <td>熊本市立動物園からガイドラインの提供依頼</td> </tr> <tr> <td>11/12, 13</td> <td>第36回大型動物麻酔研究会</td> <td>当園</td> <td>グラントシマウマの処置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/19, 20</td> <td>第34回両生類爬虫類会議</td> <td>新潟市水族館</td> <td>・天王寺動物園におけるチュウゴクフニカゲの繁殖に関するデータと生存率について ・土中の温度変化について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11/20</td> <td>近畿ブロック動物園水族館技術者研究会</td> <td>京都市動物園</td> <td>クロトギの繁殖と人工育雛に関する事例紹介</td> <td>京都市動物園からデータの提供を依頼</td> </tr> <tr> <td>12/18, 19</td> <td>全国動物園技術者研究会</td> <td>日本平動物園</td> <td>チンパンジーの逸走事故と事後の対応について</td> <td>ベストプレゼン賞を受賞。 JAZA動物園水族館雑誌（査読付）にR7年度論文を投稿予定</td> </tr> </tbody> </table> ・企画展「秘密のジュウイSHOW」にて、「天王寺動物園における飼育ホッキョクグマイツちゃんとうちやんの毛の内部藻類の共生様式について」（大阪大学）、「免疫細胞の免疫代謝制御機構の解析」（近畿大学）、「Genetic diversity and estimated geographical origin of captive critically endangered black rhinoceros in Japan: Implication for future conservation and breeding」（京都大学）のポスター掲示			日付	研究会名	開催場所	演題名	備考	6/25	近畿ブロック動物園飼育係研修会	王子動物園	エランド搬出に向けた箱入れ誘導トレーニング		7/3	近畿ブロック臨床研究会	アトア	チュウゴクオオカミに対する「安楽殺実施ガイドライン」の運営について	熊本市立動物園からガイドラインの提供依頼	11/12, 13	第36回大型動物麻酔研究会	当園	グラントシマウマの処置		11/19, 20	第34回両生類爬虫類会議	新潟市水族館	・天王寺動物園におけるチュウゴクフニカゲの繁殖に関するデータと生存率について ・土中の温度変化について		11/20	近畿ブロック動物園水族館技術者研究会	京都市動物園	クロトギの繁殖と人工育雛に関する事例紹介	京都市動物園からデータの提供を依頼	12/18, 19	全国動物園技術者研究会	日本平動物園	チンパンジーの逸走事故と事後の対応について	ベストプレゼン賞を受賞。 JAZA動物園水族館雑誌（査読付）にR7年度論文を投稿予定
日付	研究会名	開催場所	演題名	備考																																			
6/25	近畿ブロック動物園飼育係研修会	王子動物園	エランド搬出に向けた箱入れ誘導トレーニング																																				
7/3	近畿ブロック臨床研究会	アトア	チュウゴクオオカミに対する「安楽殺実施ガイドライン」の運営について	熊本市立動物園からガイドラインの提供依頼																																			
11/12, 13	第36回大型動物麻酔研究会	当園	グラントシマウマの処置																																				
11/19, 20	第34回両生類爬虫類会議	新潟市水族館	・天王寺動物園におけるチュウゴクフニカゲの繁殖に関するデータと生存率について ・土中の温度変化について																																				
11/20	近畿ブロック動物園水族館技術者研究会	京都市動物園	クロトギの繁殖と人工育雛に関する事例紹介	京都市動物園からデータの提供を依頼																																			
12/18, 19	全国動物園技術者研究会	日本平動物園	チンパンジーの逸走事故と事後の対応について	ベストプレゼン賞を受賞。 JAZA動物園水族館雑誌（査読付）にR7年度論文を投稿予定																																			
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	複数の職員で複数の研究会で発表したため。																																			
	市の評価	Ⅳ	評価理由	異なる分野の研究会に、複数の担当者が園の知見を積極的に発表しており、他園の飼育管理等にも貢献していることが確認できるため																																			
	ヒアリング結果	チュウゴクオオカミに対する安楽殺実施ガイドラインは他園からの要請に応じて提供され、知識が共有された。また、全国動物園技術者研究会において、チンパンジーの逸走事故に関する発表でベストプレゼン賞を受賞し、この事故から得た教訓が業界全体の安全性向上に寄与していることから、計画以上に進捗していると評価できる。																																					
A	次年度の年度計画	[25]園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取組段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。																																					

評価シート（個票）

通し番号		26		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・ホームページ等での情報公開の充実 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・職員の意識醸成のためのあらたな取り組みを行い、その結果としてアンケート結果などで行動変容が見られた場合	
Ⅴ		ー		
D	行動	・ホームページでの情報発信 以下のとおりHPでの発信や内容の更新を行った。 7月 令和5年度業務実績評価の公表 8月 令和5年度年報を公表 SDGsの取り組み、調査研究の内容を更新 9月 万博PRを含む110周年特設サイトを開設し、その中で理事長・園長の挨拶を掲載 ・職員研修での意識の定着化 以下のとおり研修等を実施し、意識の定着化を図った。 6月 新規採用者研修において中期計画をはじめとする法人の目標について説明 9月 係長級以下を対象としたコンプライアンス研修を実施 研修内容に近年起こった不適正事務（情報の漏洩）についても考えるグループワークを実施し、法人職員としてのコンプライアンス意識の向上を図った。 11月 服務研修・文書事務研修を実施 1月 コンプライアンス強化月間を実施し、職員のコンプライアンス意識の定着を図った。 コンプライアンス研修（管理職向け）を実施 風通しの良い職場づくりのため管理職として留意すべき視点について研修を行った。 2月 動物園学研修を実施 3月 ホスピタリティマインド研修を実施 eラーニング研修（リーダー・係長級、課長代理・課長級）を実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各職員への研修を実施し、ホームページ等で情報発信の充実を図ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	110周年特設サイトの開設など情報発信に取り組んだほか、職員の意識醸成に向けた研修を適宜実施するなど、計画どおりに進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[26] 引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		27		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	法人の組織体制（外部の専門人材登用を含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。		
	評価事例	Ⅲ	・点検の継続 ・実施効果の検証 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	次年度の体制及び専門人材の登用について各課ヒアリングを4月に実施し、5月より派遣職員の人数について市との協議を進めた。9月に業務執行体制案ができた後、採用募集活動を進め、10月～2月にかけて採用試験を行い、的確に人材採用を行った。 ・4月 次年度の体制及び専門人材の登用について、各課ヒアリングを実施 ・5月～ 大阪市と派遣職員の引き上げ計画にかかる協議を実施 ・6月～ 職員募集（獣医師係員（欠員補充）、技術職係員） ・9月 業務執行体制案を決定 ・10月～ 事務・技術・動物飼育（任期付）・役員選考 ●令和6年度 専門人材登用実績 8件 内訳：研修2件、講演2件、企画展・ワークショップ3件、歯の治療指導1件 登用の結果法人内においてよかったという評価が多く（法人内評価：求めていた以上の成果があった6件、求めていた内容が実施できた2件）、令和7年度についても継続して実施したいと考えている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	人員体制についてヒアリングなど点検作業を実施し、採用活動も含め計画どおり実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	人員体制の検討については遅滞なく業務を進めることができた。また、外部の専門人材についても研修講師としてだけでなく、ドリルの歯科治療を依頼するなど必要に応じて登用しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[27] 法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。		

評価シート（個票）

通し番号		28		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・ 方針及び計画の必要に応じた見直し ・ 資格取得支援の仕組みの周知 ・ 必要に応じた支援対象資格の追加 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施し、4月に各課長にヒアリングを行い、人材育成方針での令和6年度研修計画について、状況を確認し修正した。 ※主な変更点（研修計画） ・ 飼育展示課における新規採用者の説明において飼育管理マニュアルの見直しを導入。 ・ 年度当初に全職員向けの防災研修の実施。 ※資格取得支援実績 准認定ファンドレイザー資格継続にかかる手続き2件		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	方針及び計画の必要に応じた見直しを行ったため。 （評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	防災研修については年度当初に全職員を対象に実施し、必要に応じた見直しを行っている。令和6年度は対象者がいなかったため資格取得にかかる実績はないものの、准認定ファンドレイザーの更新に取り組むなど計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[28] 必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		29		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員的能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・類型化のうえ体系的に整理した研修の実施（指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・人材育成方針及び計画に基づき研修を実施したことにより、職員的能力・意欲喚起が著明に向上した事例	
Ⅴ		・人材育成方針及び計画に基づき研修を実施したことにより、職員的能力・意欲喚起が著明に向上した事例		
D	行動	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施し、アンケートを通じて効果、業界で求められるスキルを踏まえ、研修計画を随時見直した。 ・ 4月 各課長にヒアリングを行い、人材育成方針での令和6年度研修計画について追記修正。 ・ 5月 防災研修を実施。 ・ 6月 新規採用者研修を実施。 ・ 9月 コンプライアンス研修・情報セキュリティ研修・契約事務研修を実施。 ・ 11月 服務研修・文書事務研修実施。 ・ 1月 コンプライアンス研修（管理職向け）を実施 ※風通しの良い職場づくりのため管理職として留意すべき視点について研修を行った。 ・ 2月 動物園学研修を実施 ・ 3月 ホスピタリティマインド研修を実施 e-ラーニング研修（リーダー・係長級、課長代理・課長級）を実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画的に研修を実施でき、新しい研修についても検討するなど現状を反映し修正したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職員アンケートの結果を受けて年末調整研修を新たに実施するなど、必要に応じて見直しを行いながら取り組んでおり、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[29]人材育成方針及び計画、提案型研修制度に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		30		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。		
P	中期計画	第2-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行われる仕組みを構築する。		
	年度計画	令和5年度に改正した評価制度の内容について検証を実施するとともに、よりインセンティブが働く評価制度の構築に向けて検討、実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 検討結果の分析を含む人事評価制度の運用（指標：前年度と同水準） ・ 職員にインセンティブが働く評価制度の構築 ・ 必要に応じた見直し	
		Ⅳ	・ 検討結果の分析を含む人事評価制度の運用により職員の能力・意欲喚起があらかたに向上した事例	
Ⅴ		・ 検討結果の分析を含む人事評価制度の運用により職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例		
D	行動	インセンティブがより働く評価制度の構築について検討を行い、①業績結果活用型報酬制度②人事評価結果活用型報酬制度③提案型研修制度を構築・実施した。 ①業績結果活用型報酬制度 全職員が中期目標の達成を目指すにあたり、目標を上回る結果に対するインセンティブとして報酬を全職員に配分することで、職員が一丸となって取り組む動機づけとすることを目的として実施。 ②人事評価結果型報酬制度 個人の仕事への成果をすばやく給与に反映させることを目的として実施。 ③提案型研修制度 法人職員が自ら、法人における課題の解決に向けて、先進的な取り組みをする園・館などを視察し、また実地に学ぶことを通じて、課題解決の方策を提案する機会を提供することにより、法人のさらなる発展に資するとともに、職員の働く意欲向上のためのインセンティブとすることを目的として実施。 ・ 6月 インセンティブ制度（上記①～③）の構築、法人内承認 ・ 7月 提案型研修制度の通知 ・ 7月 R5人事評価制度検証 ・ 7月～8月 自己申告・中間面談の実施 ・ 7月～9月 組合協議・改正案作成 ・ 11月 法人内承認 ・ 12月～1月 人事評価制度周知（e-ラーニング）、インセンティブ制度説明 ・ 1月～3月 人事評価結果活用型報酬制度に基づき人事評価制度を実施。 ※提案型研修制度は実施したが対象なし。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	人事評価制度を適切に運用し、インセンティブを反映できる制度を構築・実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	人事評価にかかるインセンティブ制度を構築し、運用する段階に移行した。提案型研修制度は採択には至らなかったとのことだが、取組自体は計画どおり進捗していると評価できる。職員の意欲喚起につながるよう今後の展開に期待したい。		
A	次年度の年度計画	[30] 令和6年度に構築したインセンティブが働く評価制度について定着を図るとともに、制度の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。		

評価シート（個票）

通し番号		31		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(1) PDCAサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のPDCAサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。		
P	中期計画	第2-3-(1) PDCAサイクルの確立 法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	年度計画	年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。		
	評価事例	Ⅲ	・進捗管理シートによる進捗状況の確認及び市との共有 ・中間評価の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・大阪市と毎月1回の定例会議（係長級、部課長会）及び各種会議において都度情報共有を行い、年度計画の進捗状況、見込み評価の実施方法、中期計画の策定にかかるスケジュールの調整・検討を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	進捗管理シートによる進捗状況の確認及び市との共有を定期的に行い、スケジュールに沿って中間評価の実施・共有することができたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職階に応じた会議を定例的に市側と開催し調整を図ったほか、業務実績中間評価等を通じて進捗状況を本市と共有するなど計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[31]年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		32		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。		
P	中期計画	第2-3-(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。		
	年度計画	人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップや新たなシステム導入を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・導入しているシステムの安定運用 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・導入しているシステムによりあきらかに効果的・効率的な業務執行ができた事例	
Ⅴ		・導入しているシステムによりはるかに効果的・効率的な業務執行ができた事例		
D	行動	勤怠システムについて、新規採用者・管理監督者向け勤怠システム研修を実施した。研修資料については各課周知。 ワークフローシステム（業務についての一連の流れ（決裁）を電子的に行うことができるようにするシステム）導入については、各課文書事務担当者間で検討会議を実施した。運用方法・規程整備について課題を確認。令和7年度以降も引き続いて検討を行う。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	導入しているシステムについて安定的に運用したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	導入済みのシステムについては安定運用を図ったほか、システム操作についても適宜研修を実施した。導入を検討しているワークフローシステムについては、諸規程整備にかかる調査など必要な検討を行っており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[32] 人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップやワークフローシステムなどの新たなシステム導入を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		33		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	入園料収入5.9億円・入園者数206万人を目標とする。（令和6年度予算）		
	評価事例	Ⅲ	・目標値の達成	
		Ⅳ	・目標値をあきらかに上回り、その原因把握・分析ができた場合	
Ⅴ		・目標値をはるかに上回り、その原因把握・分析ができた場合		
D	行動	・仮チンパンジー舎のスロープの手すりに高温対策のカバーの設置や鋼板塀による動物園の雰囲気崩さないための動物シールの貼付け、ナイトZ00中に安全に観覧いただくための照明の設置等を行った。 ・シェラトン都ホテルと連携事業実施（7月～9月）339人販売 ・ナイトZ00では、ゲリラ的に実施する飼育ガイドやおやつタイムに加え、夜の動物とおき話やトークカフェを各日で実施することでイベントを充実した。 ・園内フリーWi-Fiを、9月26日にてんしばゲートに設置完了し運用を開始した。 ・お客様満足度アンケートの意見より、昨年に引き続きナイトZ00開催日にトークカフェを開催し、昨年は1日開催から拡充し3日間行った。 また、休憩場所が少ないという声に対して、旧シカ舎跡を休憩スペースとして開放し休憩場所の充実を図るほか、園内ベンチの増設も行った。 さらに暑さ対策として、ホッキョクグマ舎前にミストを増設するほか、昨年に引き続きスプリンクラーの設置も行った。 ・令和6年8月から大阪メトロのBRT（今里ライナー）と相互送客を目的とした割引券の運用を開始した。 ・令和6年11月1日より大阪楽遊パスの運用を開始した。（約500人/月） ・南園メガネグマ舎前三差路において、お客様より迷いやすいとのご意見が多かったため、下記画像のとおり案内表示を設置した。  ・令和7年1月1日に110周年を迎えたことから無料開園日とし、こどもユニフォーム撮影会等のイベントを実施した結果、入園者数は2万人を超える盛況となった。なお、こどもユニフォーム撮影会イベントには141組512名の参加者があった。 ・令和7年2月22日に110周年イベントとしてこどもユニフォーム撮影会等のイベントを実施した。参加：199組 346名 令和6年度入園料収入：528,658,149円 入園者数：1,697,555人		
C	法人の自己評価	Ⅱ	評価理由	新たな連携事業やイベントの拡充に努めたものの、獣舎リニューアル工事の遅れなどもあり、入園料収入・入園者数の目標達成ができなかったため。
	市の評価	Ⅱ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	入園料収入・入園者数の目標値達成には至らなかったが、令和6年度は新しい獣舎の完成が無かったうえ、夏の猛暑等天候の影響もあったと考えられる。しかしながら様々なイベントの実施等法人も努力しており、170万人程度の入園者数を継続できている。今後の展開に期待したい。		
A	次年度の年度計画	[33]入園料収入5.3億円・入園者数181万人を目標とする。（令和7年度予算）		

評価シート（個票）

通し番号		34		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	令和4年度に実施したクラウドファンディングで培ったノウハウを生かし、2回目のクラウドファンディングを実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・クラウドファンディングの目的達成	
		Ⅳ	・クラウドファンディングにおける新たな取り組みを行い、目標額を上回った場合 ・クラウドファンディングの支援者をファンクラブ会員へあきらかに取りこめた場合	
Ⅴ		ー		
D	行動	・動物のエンリッチメントにかかる設備購入を目的とすることを8月に決定し、必要金額の確認や実施時期の検討を進めていたが、9月に価格高騰により目的の設備が非常に高額であることが判明した。クラウドファンディングのみで資金を集めることが難しいと考えられ、10月以降、企業への営業や内部の他の財源を検討したが、不足分を補える財源が見つからず実施が困難であるため、12月に内容を変更することを決定し、再度検討を行うこととなった。 ・再度、内容、時期、必要金額など、令和7年度の実施に向け検討を進める。		
C	法人の自己評価	Ⅱ	評価理由	年度内の実施が困難となったため
	市の評価	Ⅱ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	クラウドファンディングで購入予定だった設備の価格高騰や人件費増が判明したことから、資金計画や返礼品について見直す必要が生じ再検討を行った。施設の改修等であれば寄附額によって内容を調整することもできる一方、設備は目標額を達成したかによって購入可能かを左右することを踏まえ、見通しが立たない状況での実施は得策ではないとした法人の判断を尊重するものの、令和6年度の実施を見送ったためⅡ評価とする。		
A	次年度の年度計画	[34] 2回目のクラウドファンディングを実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		35		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	これまでの営業実績の検証を踏まえた「天王寺動物園における渉外営業戦略」に基づき渉外営業を実施し、入園料外収入の確保に努める。		
	評価事例	Ⅲ	・ 営業計画（R6）に基づいた営業実施	
		Ⅳ	・ 営業実施し、収入確保にあきらかに貢献した取り組み事例	
Ⅴ		・ 営業実施し、収入確保にはるかに貢献した取り組み事例		
D	行動	・ 令和5年度の営業ではファンクラブの更新率やクラウドファンディング協力の期待が高かったことを踏まえ、営業計画（令和6年度）について課内での検討を進め、営業戦略（令和6年度）を策定した。 ・ 策定した営業戦略に基づき、110周年記念事業への協力や今後実施予定のクラウドファンディング、従来継続していただいているご寄附について、今後も継続いただけるよう、長期間寄附を継続している法人等に対し、営業用物品等を準備した上で、営業活動を実施した。（訪問37件、来訪2件、送付45件） ・ 営業の結果、従来の継続寄附とは別に新たな支援として、4件の現金寄附（95万円）、1件の物品寄附（256万円）、1件のイベント協力があつた。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	営業計画（R6）に基づき営業を実施した結果、寄附の獲得につながったため（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	計画に基づいて営業活動を行った結果、法人ファンクラブの更新だけでなく、新規寄附やイベント協力につながっており計画以上に進捗していると評価できる。さらなる新規開拓にあたっては実施体制の検討等課題はあるが、今後も継続して収入確保に努めてほしい。		
A	次年度の年度計画	[5]継続してファンクラブ募集に取り組むほか、法人ファンクラブについては営業戦略に基づく渉外営業を実施し、全体として前年度を超える会員数を目標とする。		

評価シート（個票）

通し番号		36	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。	
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。	
	年度計画	寄附額12百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。	
	評価事例	Ⅲ	・ 寄附額12百万円の獲得 （指標：R6の目標値）
		Ⅳ	・ 目標値を超えかつ収入確保に向けた新たな取り組み事例
Ⅴ		—	
D	行動	・ 遺贈手続きの金融機関との提携に向け、関係機関との調整を進め、10月に新たに協定を締結した。 ・ 遺贈に関する提携について記載したリーフレットを作成し、提携金融機関および園内に配架するとともに、ホームページに遺贈寄附提携の内容を追加し、リーフレットのダウンロードができるよう修正を行った。 ・ 9月にライオン募金付近に募金箱がある旨の案内看板を設置したことで、募金額が令和5年度より2倍以上増加した。（459千円→1,032千円） ・ ファンクラブプレミアム会員特典のバックヤードツアーにて参加者に寄附のチラシを配布するなど積極的に寄附制度について周知し、バックヤードツアー参加者からの個人寄附増につながった。 ・ 営業計画に基づき営業を実施し、4件の現金寄附、1件の物品寄附を獲得した。 ◆寄附額 令和5年度 27,349,826円 令和6年度 27,881,635円	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由 12百万円を超える寄附獲得および、ライオン募金看板設置による募金額増や、新たに金融機関と遺贈手続きの協定を締結したため。 （評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅳ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ライオン募金については募金箱付近に案内看板を設置したことで募金額が倍増した。加えて、個人寄附の呼びかけを強化するなど新たな取組の結果、令和6年度の目標値だけでなく、令和5年度実績も超える寄附を獲得している。金融機関との遺贈寄附に関する協定締結も含め、計画以上の進捗があったと評価できる。	
A	次年度の年度計画	[35] 寄附額13百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。	

評価シート（個票）

37

通し番号				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額22百万円を達成する。		
	評価事例	Ⅲ	・予算の達成	
		Ⅳ	・予算を超えかつ収入確保に向けた新たな取り組み事例	
Ⅴ		ー		
D	行動	園内事業者と連携し、コラボ商品をはじめ、魅力ある商品の開発を行ってきた。 また、110周年オリジナルグッズとしてミニタオル、Tシャツ、コンベイト缶、クリアファイル、アクリルキーホルダー、マグカップ、トートバックや時計（110本限定）を提案し販売してきた。 さらに、ショッピングバッグ（紙袋）も110周年バージョンデザインを制作し販売した。 ・販売ブースについては、下記画像のとおり設置し販売中。  場所：ZOOQLE及びG00Z00店舗内 ※写真はG00Z00店舗内 ・また、110周年のオリジナルグッズについては、学習棟内において、販売促進のため紹介ブースを設置したほか、HPでもグッズを紹介しPRを行った。  場所：だいしんワクワクホール前 【歩合収益額】R7.3月末現在：22,211千円 R6.3月末現在：19,830千円		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	110周年オリジナルグッズを開発を行い、イベントの周知ポスターでも販売促進を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度も引き続きグッズ開発に携わったほか、110周年オリジナルグッズの販売と園内でのPR等により予算を達成したことから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[36]園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額23百万円を達成する。		

評価シート（個票）

通し番号		38		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和5年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策（新オープン施設を除く既存施設での効率化等）を検討・実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・排出量や使用量の節減（新オープン施設除く）	
		Ⅳ	・大幅な経費節減 ・新たな経費削減事例	
Ⅴ		—		
D	行動	・ごみ排出量削減に向けて分別徹底のポスター掲示を行った。 ・電気使用量については、真夏、真冬の空調の使用増について、動物の生活に影響のない範囲で温度設定や使用台数の確認を適宜おこない、適正な電気使用量となるよう注意喚起を行った。 - また、電力のデマンドが出た際適宜節電の呼びかけを行い、12月より関電からの節電要請時に朝礼等で節電協力と呼びかけた。 ・会議・研修等での資料の無駄な出力を防ぐよう都度周知した。 - 法人内研修において資料の一部を印刷せずメール配付とする・一部のアンケートをQRコードからの回答に変更し、研修実施時の紙の使用量を約半減した。 <参考> 水道使用量（全体） R5：240,440m³/R6：239,999m³ 電気使用量 R5：3,623,058KW/R6：3,611,899KW コピー用紙（A4・A3） R5：226,000枚/R6：205,500枚		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	排出量や使用量を節減したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度もごみ排出量削減や電気、水道使用量削減に向けて継続的に取り組んだ。令和5年度と比較・検証を行った結果、削減できていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[37] ・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和6年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策を検討・実施する。 ・これまでの包括施設管理業務委託（令和4年8月～令和7年7月）を踏まえ、次期（令和7年8月～）の発注を維持管理業務の効率化（例：紙管理⇒データ管理等）を考慮した内容に見直し、契約後実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		39		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	第一期リニューアル整備事業にかかる整備費（物価上昇や地中障害対策等の外部影響を除く）について、中期計画で定める予定額（6,460百万円）内での整備を目指し、内容や仕様の見直し等によりコストを縮減する。		
	評価事例	Ⅲ	・第1期リニューアル整備事業の事業費削減（指標：中期計画で定める6,460百万円未満）	
		Ⅳ	・第1期リニューアル整備事業のあきらかな事業費削減	
Ⅴ		・第1期リニューアル整備事業のはるかな事業費削減		
D	行動	・実施設計・現場施工で判明した地中障害・不可避要因（アスベスト除去・不明埋設管・安全対策等）への対応や物価上昇により、事業費が増額となった。 ・施工業者と設計変更内容及び工事費の増減を適宜把握し、増額への対策として施工業者から代替案を提示させ、園内関係部署とも実施可否の確認を行いながら、コスト縮減に向けた調整を図ってきた。 ・中期計画上の予定額を超えるものの、増額の内訳は上記のとおり外部影響によるものである。 ※事業費 中期計画での予定額 6,460百万円 総事業費（予定） 7,262百万円（+802百万円）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	中期計画で定める予定額から超過するものの、増額の内訳は物価上昇や地中障害物対策等の外部影響によるものであるため
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	中期計画の予定額を超過するが、増額の内訳は物価上昇や地中障害物対策等の外部影響によるものであり、これらを除くと中期計画上の予定額を超えないため、Ⅲ評価とする。		
A	次年度の年度計画	[38]第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の整備費について、新たに不可避要因等の外部影響による増額が見込まれる場合は、内容や仕様の見直し等を行い、中期計画で定める予定額内で整備する。		

評価シート（個票）

通し番号		40		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 内部統制体制に関する定期的な検証	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	・ 5月 内部統制委員会において、令和5年度の内部統制委員会における取組結果の確認を行い、6月の理事会において報告を行った。 ・ 7月 個人情報漏えい事案が発生したため、臨時で内部統制委員会を開催し、発生状況の調査および再発防止のための施策について議論し、全職員への周知を行った。 また、7月の周知に加え、9月の情報セキュリティ研修でも個人情報の取り扱いについて具体的な施策（メールの送付先種別、自動引用の停止方法など）も踏まえ説明した。 ・ 10月 職員による窃盗事案が発生したため、内部統制委員会等を開催し法人規程に基づき対処（11月懲戒解雇）、一連の経過については適宜公表した。 再発防止策（施錠徹底等）を速やかに講じたうえで職員に周知徹底した。 ・ 12月 内部統制委員会において、1月のコンプライアンス強化月間の取り組み内容を決定し、1月 コンプライアンス強化月間として、チェックシートでコンプライアンス意識のセルフチェックを実施するとともに管理監督者向けコンプライアンス研修を実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部統制体制に関する定期的な検証を行ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	不適正事案などの問題発生時において、随時、内部統制委員会を開催し、再発防止策を周知、研修を実施するなど計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[39]内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		41		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直しが可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・リスク管理の取り組み （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	・リスク管理計画に基づいてリスク管理委員会を開催し、リスク管理を着実に実施した。 第1回 リスク管理状況の確認を行った。また7月に発生した個人情報漏洩事案及び10月に発生した窃盗事案について、問題点の確認を行い再発防止策の策定を行った。 第2回 令和7年度リスク管理計画を策定し、令和6年度の状況を踏まえ、個人情報漏洩と園内の盗難・器物損壊について新たな取組事項とした。 ・獣舎整備については週1回の会議においてスケジュールの共有を行った。 ・動物の脱走防止・機能保持と現状把握を目的とした保有施設の点検・補修を計画的に実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	リスク管理に取り組んだため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	リスク管理規程に基づき管理対象業務について、研修や訓練を行ったり定期的に進捗確認を行っていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[40] リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		42		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用		
P	中期計画	第8-2-(4)-② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。		
	年度計画	諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 諸規程の更新 ・ 全職員や階層別研修の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し、必要なものは新たに整備した。変更内容については定期的実施する研修等で周知を行った。 ◆改正もしくは新規制定した規程類 「地方独立行政法人天王寺動物園契約規則」（R6. 6） 「地方独立行政法人天王寺動物園旅費に関する規程」（R6. 8） 「地方独立行政法人天王寺動物園職員勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」（R6. 8） 「地方独立行政法人天王寺動物園職員給与規程」（R7. 3） 「地方独立行政法人天王寺動物園職員特殊勤務手当支給規程」（R7. 2） 「地方独立行政法人天王寺動物園寄附金使途協議会設置要綱」（R6. 8） 「地方独立行政法人天王寺動物園長期継続契約に関する要綱」（新規） 「地方独立行政法人天王寺動物園会計規程」（R6. 11） 「地方独立行政法人天王寺動物園目的積立金使途協議会設置要綱」（新規）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	諸規程類の運用状況を確認し、改正および新規整備を行ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年間を通して適宜諸規程の見直しを行なったうえで、改正及び新規整備していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[41] 諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的実施する。		

評価シート（個票）

43

通し番号		43		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(3) コンプライアンスの周知徹底		
P	中期計画	第8-2-(4)-③ コンプライアンスの周知徹底 法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。		
	年度計画	コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取り組みを継続して実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・コンプライアンスの取り組み （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	・9月に係長級以下の全職員を対象にグループワークを含むコンプライアンス研修を実施した（出席率は100%）。起こりそうな事案や過去多くの地方自治体で起きている事案などをもとにグループワークで議論した。研修後のアンケートでも9割近くの職員が「この内容は今後職場で活用及び応用ができそう」と答えており、意見としても「法人の事例も挙げられていたので、身近なところに注意しないとならない。」「コンプラ意識をもう一度高めようと思った。」「前回聞いていた内容でも、時間が経つと曖昧になっていた部分が多々あることに気が付けてよかった。」などコンプライアンス意識を高く持つことの重要性を認識したという職員の回答が得られた。 ・1月をコンプライアンス強化月間と位置づけセルフチェック、啓発ポスターの掲示を行った。 ・1月にコンプライアンス研修（管理職向け）を実施し、風通しの良い職場づくりのため管理職として留意すべき視点について研修を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	コンプライアンス研修・強化月間を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	計画に基づき、グループワークなどを活用しながら職員に対して適切に研修を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[42] コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取組を継続して実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		44		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(4) 個人情報等の保護		
P	中期計画	第8-2-(4)-④ 個人情報等の保護 個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。		
	年度計画	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・継続した研修の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	・年度当初に個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう周知した。 ・7月に個人情報の漏えい事案が発生したため、全課に注意喚起をした。また、9月の情報セキュリティ研修でも今回の事案を踏まえ、研修内容に個人情報取扱についての内容を盛り込み管理の重要性を説明し周知した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	7月に個人情報漏えい事案が発生したが、その後の研修等で改めて個人情報の取扱と管理の重要性を説明し、その後の再発防止を図ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	情報セキュリティ研修でBCCの使い方の説明やワンドライブの活用を勧めるなど、重要管理ポイントの周知を着実にやっている。しかし、令和7年度にも個人情報流出が発生しているため次年度はより一層研修内容の充実を図るなど取組を強化してほしい。		
A	次年度の年度計画	[43]個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		45		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施		
P	中期計画	第8-2-(4)-⑤ 内部監査及び監事監査の適切な実施 内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。		
	年度計画	内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。		
	評価事例	Ⅲ	・内部監査・監事監査の実施 ・随時監査の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	内部監査・監事監査を定期監査として次のとおり実施した。 ※随時監査は実施せず。（大阪市からの監査委員監査あり。） ◆監査テーマ ＜内部監査＞ ・請求事務 ・決裁・供覧文書管理 ・寄附收受業務・ファンクラブ会員受付業務 ・個人情報取扱事務 ・第1期リニューアル工事（令和5年度実績分） ・令和5年度内部監査指摘事項に対する対応状況 ＜監事監査＞ ・寄附金收受、ファンクラブ会費の会計処理 ・第1期リニューアル工事（令和5年度実績分） ・業務管理 ・決算確認		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部監査・監事監査を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度も内部監査・監事監査を継続的に実施しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[44]内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。 また、市の監査結果における指摘事項が改善されているかも併せて確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		46		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(6) ネットワークセキュリティの強化		
P	中期計画	第8-2-(4)-⑥ ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。		
	年度計画	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改定を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・必要に応じたマニュアルの改訂および研修の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	・9月に情報セキュリティ研修を行い、過去に法人でも起こったケースについて説明した。また、BCC、CCの違い、持ち出しによる情報漏洩の防ぐためにOneDriveの活用方法について説明を行った。 ・アンケートにおいて、9割近くの職員が「この内容は今後職場で活用及び応用ができそう」と答えており、意見としても「情報の取り扱い方やルールを徹底する大切さがわかって良かった。」「知っていることも改めて認識する機会となった。」「法人での決まりが改めてよくわかった。」など適切な対処について理解が深まったという職員の回答が得られた。 ・セキュリティポリシーにかかるマニュアルについては、検証の結果、マニュアルの周知徹底・研修内容の充実で対応できると考え、今のところ改定の必要はないと判断した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	研修を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度もマニュアルの検証、全職員に対する研修を継続的に実施しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[45]セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改訂を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		47		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	大規模かつ長期間にわたる工事が継続することから、来園者及び職員の安全対策に配慮する。		
	評価事例	Ⅲ	・設計・工事の法令順守および来園者・職員の安全対策の実施	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	・設計・工事受注者の提案による安全対策を継続して的確に実施した。更なる安全対策として、来園者への影響がある場合の休園日または開園時間外施工、工事による既存獣舎避難誘導経路の変更を実施した。 ・設計・工事の法令順守はもとより、技術提案および更なる安全対策の実施により、来園者および職員の事故は発生しておらず、安全に関するクレームも特になかった。 （例）数日間の施工となる外構舗装工事（アフリカの森）について、隔週の休園日に分割した施工となるよう調整・指示を行い、開園日における来園者への影響（通行止めや迂回等）が生じないようにした。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	来園者・職員の安全対策を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	施工時間の変更など来園者及び職員の安全対策に配慮した見直しを適宜行っており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[46]第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の工事が継続することから、工事に伴う事故が無いよう来園者及び職員の安全対策を実施する。		

評価シート（個票）

48

通し番号		48		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。		
	評価事例	Ⅲ	・定期点検の着実な実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
		Ⅴ	—	
D	行動	・職員による年2回の獣舎点検を実施した。また、包括管理事業者による日常点検および定期点検を着実に実施し、適時適切に確認を行った。 ・点検結果を踏まえ軽微な故障箇所については、包括管理事業者から速やかに修繕案および見積を提出をさせ、各担当と調整のうえ改善を適時適切に実施した。 （例） 毎月点検……昇降機設備（エレベーター） 年1回点検……受変電設備、自家用発電設備、 年2回点検……消防設備、放送設備 等		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各種点検を着実に実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和6年度も職員による獣舎点検及び包括管理事業者による各種点検及び修繕を実施しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[47] 来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。		

評価シート（個票）

通し番号		49		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	・引き続き初動訓練に重きを置いた災害訓練を実施する。特に勤務時間外の発災を想定した訓練を実施する。 ・猛獣脱出対策訓練については、事前に職員には周知せず、シナリオのないブラインド訓練を実施する。また、あらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・関係機関と連携した災害訓練の実施 ・効果的な猛獣脱出対策訓練の実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	【4月】防災研修を行い、全職員を対象に猛獣脱出時の体制確認及び捕獲までの流れの再確認、捕獲道具の保管場所や使い方について再周知した。 【11月】防災訓練（初動訓練、DIG訓練）を実施し、その際自然災害の二次災害として猛獣の逸走があったケースについても訓練を実施した。 【2月】脱出猛獣による職員の死亡事例を経験している講師による座学を動物飼育専門員全員を対象として複数回実施したのち、猛獣脱出訓練を実施した。 ・上記防災訓練について、動物園支援担当とも連携して実施し、緊急連絡方法等の調整を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	令和5年度のチンパンジー逸走事故を受け、より実態に即した設定を構築し、効果的な訓練を実施した。また事故を風化させないため、座学研修も実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	猛獣脱出訓練や職員の死亡事例を経験している講師による研修を実施するなど研修内容の充実を図っており、計画どおり進捗していると評価できる。今後も改善を図りながら継続的に実施してほしい。		
A	次年度の年度計画	[48] 令和6年度の実施結果により、より来園者の安全確保につながる効果的な猛獣脱出訓練として、シナリオを通知しない訓練及びあらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		50		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第5-3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。		
P	中期計画	第8-2-(6) 職員の安全衛生管理 労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取り組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。		
	年度計画	安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取り組みを進める。		
	評価事例	Ⅲ	・安全衛生管理体制の確立と健診等の着実な実施 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	—	
Ⅴ		—		
D	行動	健康診断や必要な予防接種、健康講座などを着実に実施し、安全衛生委員会について毎月1回実施した。また、安全衛生委員会の開催内容にかかる議事について、職員あてに周知した。実施した施策は以下のとおり。 4月 産業医・衛生管理者の選任 ※前年度から引き続いて選任 破傷風対象者調査 破傷風業者決定 5月 ハラスメント相談窓口の設定・周知 健康診断実施業者決定 ストレスチェック業者決定 5月～9月 破傷風予防接種実施 8月 健康診断・特殊健康診断実施（1回目） 9月～ 健康診断事後措置 10月 ストレスチェック実施 12月 ストレスチェック組織結果共有 1月～ 2月 健康診断・特殊健康診断実施（2回目）※獣医師のみ 毎月1回 安全衛生委員会、産業医職場巡視を実施した。 ヒヤリハット事例の様式を作成し、事例が起こった場合は各課係長以上に適宜供覧を行うとともに、安全衛生委員会にてヒヤリハット事例を共有した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	安全衛生管理委員会を適宜開催し、健診、ストレスチェック、健康講座を着実に実施したため。 （評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職員の安全衛生管理について、令和6年度も引き続き安全衛生委員会の開催や健康診断等を着実に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[49]安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取組を進める。		

評価シート（個票）

通し番号		51		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-4 環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(7) 環境に配慮した取組の推進 WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。		
	年度計画	SDGsに関する園内での取り組みを拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取り組みを進める。		
	評価事例	Ⅲ	・SDGsの園内での取り組み拡充及び企業等との協働 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	・SDGsの園内での取り組み拡充及び企業等との協働しあきらかに地球環境保全に貢献した事例	
Ⅴ		・SDGsの園内での取り組み拡充及び企業等との協働しはるかに地球環境保全に貢献した事例		
D	行動	Team Expoの共創事業の一環として各種イベントを共同で開催し、ペットボトルのキャップ回収について継続して行った。 また、古くなったユニフォームのアップサイクルを令和5年度に引き続き実施した。食品ロス削減目的での飼料（レタス等）について継続的に受け入れるほか、令和6年度においてはパンについても受け入れをはじめた。（約27キロ受入） 令和5年度大阪市より譲渡された樹木については、適切に管理し、令和6年度において園路の植栽および飼育動物のエンリッチメントに活用した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ユニフォームのアップサイクル、企業等と協働したイベントや食品ロスの削減、植栽の再利用など継続して取り組みを進めたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度から継続している取組だけでなく、外部機関や民間企業との協働により新たな取組を複数実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[50]SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。		

評価シート（個票）

52

通し番号		52		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(8) 情報公開の推進 情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。		
	年度計画	法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。		
	評価事例	Ⅲ	・財務諸表や年報の公表 （指標：前年度と同水準）	
		Ⅳ	－	
Ⅴ		－		
D	行動	令和5年度の年報について、法人内で協議し、わかりやすさを意識した内容に変更して法人ホームページで公表するとともに、営業用に製本し、寄附実績のある民間企業等に配布した。 また、財務諸表や役員の報酬額についてもホームページ上で公表した。 さらに、令和6年度年報のコンテンツについて検討を進めた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	財務諸表や年報について公表したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度の財務諸表や年報について公表しただけでなく、令和6年度年報の中で110周年を迎えたことを触れることで歴史ある動物園であることを外部にアピールし、法人への理解が深まるよう検討を行うなど計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[51]引き続き、法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。		

評価シート（個票）

通し番号		53		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-6 BCPの策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、BCP（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。		
P	中期計画	第8-2-(9) BCPの策定 地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染症時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。		
	年度計画	前年度（令和5年度）に発生した動物逸走や停電事案を踏まえ、BCPの改定を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・BCPの検討の推進及び改定	
		Ⅳ	・BCPの内容について拡大及び充実 （指標：令和3年度策定版）	
		Ⅴ	ー	
D	行動	BCP検討会議において、被害想定の内容の範囲拡大（園路の倒木なども対象に入れた上での各獣舎単位での被害想定）、停電や飼育動物の逸走などの自然災害以外が発生した際、出勤中/休暇中に関わらず迅速に職員に状況を伝え、参集を呼び掛ける仕組みの必要性などについて確認を行った。 また、防災訓練・リスク管理委員会において、南海トラフ巨大地震だけでなく上町断層帯地震についても盛り込むべきという意見をふまえ、BCPについて上町断層帯地震の被害想定や初動体制について追記し、改定を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	BCPの検討の推進及び改定を行ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	被害想定を拡大させたり、各地震に備えた初動体制を盛り込むなどBCPの追記・改訂を着実に実施したことから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[52] これまでの事案や令和6年度の状況を踏まえ、必要に応じてBCPの改定を行う。		